



活動発表1

あいづ わかまつりつ かわなみ さと 会津若松市立川南小学校「ホタルの里」

◆タイトル

緑化を通し持続可能な 「未来の創り手」になる!

◆発表者

さとう ひなの
佐藤 陽乃さん

さいとう みさき
齋藤 みさきさん



私たちは、会津若松市立川南小学校「ホタルの里」緑の少年団です。

私たちの学校は、会津若松市の南西に位置し、東に阿賀川、西に宮川に挟まれた、米と野菜と果物の生産がととも盛んな北会津地区にあります。学校の周辺には、広い水田や畑が広がり、夏には、たくさんのホタルが優しい光を放ちながら、飛び交っています。

私たち、川南小学校「ホタルの里」緑の少年団は、2002年に結成し、今年で22年目を迎えました。去年から少年団の活動を全校に拡大しました。

ユネスコスクールでもある川南小学校では、「持続可能な開発のための学び」として、全校一丸で、各学年で、縦割り活動によって、様々な体験を学びにつなげています。



1



2



3



4



5



6



7



8



9



10



11



12

緑の少年団／福島県

少年団では、特に三つの取組に力を入れて活動しています。

一つ目は、「花に囲まれた学校・地域づくり」です。

私たちの学校には、広い花壇がいくつもあり、春から秋にかけて季節の花々が美しく咲き誇り、みんなの心を和ませ、訪れた人を笑顔にしています。学校の花壇作りは、秋の球根植えから始まります。春花壇には、チューリップの球根やパンジー、ビオラの苗を植えます。

何色のチューリップをどんな配置で植えるか、みんなで相談しながら植えるので、とても楽しいです。そして、春になり、思い描いていた彩りの花壇になった時は、さらに喜びを感じます。

5月の終わり頃から、夏花壇作りが始まります。植える花も、今年から学年毎に自分たちで選び、レイアウトを工夫して植えています。ますます楽しみな取組となりました。

川南小学校では、シンボルである「カンナ」の花をどの学年でも共通して育てています。

毎年二メートルを超えるほどに大きく育つカンナは、美しい花壇の中でも、ひとときわ目を引きま



13



14



15



16



17



18



19



20



21



22



23



24

緑化を通し持続可能な「未来の創り手」になる！ 会津若松市立川南小学校「ホタルの里」緑の少年団／福島県

また、私達の花壇づくりは、学校だけでなく地域全体でも行っています。地域からの協力をいただき、各地区の集会所などで花を育てます。夏休みには、ラジオ体操の後に、水やりや草むしりの作業を行っています。その場所は、地区の人々の憩いの場所にもなっていて、いろいろな年代の方と交流を深めています。

さらに、プランターで育てたサルビアやペゴニアの花を消防署や郵便局、老人ホームなど、学区内の施設に届けています。私たちの届けた花には、「コロナを乗り越えるすごいパワーがあるね。」と喜んでいただいて、とてもうれしいです。

二つ目の活動は、地域の障害者施設の方々で行う「栽培活動」です。低学年はさつまいも、中学年は、ラベンダー、高学年は米作りで協働して育てています。夏の暑い時期の水やりや除草などは苦勞も多いですが、収穫の時は、みんなの顔が喜びにあふれます。

私たちは、普段の生活の中で、障害を持つ方と触れ合う機会は多くはありません。でも、花や作物を育てる活動は、私達と障害を持つ方を優しくつないでくれます。同じ願いを持って、一緒に栽培する中で、皆さんとの絆が育ち仲良くなれています。

この取組が認められ、以前には、「障害者自立支援活動賞」をいただくこともできました。

三つ目の活動は、「森林環境学習」です。川南小学校には、多くの樹木があります。

昨年の探究学習で、校地の樹木を調べたところ、45種類、約300本の樹木があることが分かり、とても驚きました。ドローンで調べてみれば、高い木は、21mもありました。

また、学校の裏の敷地には、「ドングリ林」があり、毎年クヌギの実がたくさんあります。私達の先輩は、育ててきた苗木を近隣の山に行って植樹しました。その苗木は、今でもすくすくと育っています。これまで、年に2回、枝打ちや雪囲いをして大切に守ってきました。

さらに、「ドングリ林」のクヌギの実を拾い集め、北会津で保護されている熊の「ふくまつ」君と「したら」君に届ける活動も継続してきました。年々、えさとなるドングリが手に入らなくなり、困っているようで、とても喜んでいただいています。

今年は、どんぐり林を動植物と私たちの憩いの場にする作戦を立て、いただいた廃材を利用してベンチやブランコなどを作ったり、きのこを栽培したりするわくわくの計画が進んでいます。

こうした、緑化や森林の役割を学んだり、環境を守ったりするESDを続け、「私たち」も「地域社会」も幸せになる持続可能な未来を創るために、団員みんなで協力し、心をこめて活動を続けていきます。

そして、もっともっと 学校と地域に笑顔の輪を広げていきます。



25



26



27



28



活動発表2

なませ

生瀬緑の少年団 / 茨城県

◆ タイトル

「ふれあいの森林(もり)」を
「ふるさとの森林(もり)」へ

◆ 発表者

くろだ まさき こばやし あかね
黒田 万倖樹さん 小林 茜音さん

あんどう りょうか
安藤 涼花さん



みなさん、こんにちは！これから、生瀬緑の少年団の活動発表をします。よろしくお願いします。
私たちの住む大子町は、町の約80%が山林で覆われています。日本三名瀑である「袋田の滝」の上流に、生瀬小学校があります。
生瀬緑の少年団は、平成26年に結成され、現在は、全校児童32名が、約4.2ヘクタールの、広大な学校林で、活動しています。
活動の中心となる学校林は、「ふれあいの森林」と呼ばれています。校舎のすぐ裏にあり、開校時から、多くの人の手で、整備されてきました。

<p>令和5年度 全国緑の少年団活動発表大会活動発表 「ふれあいの森林(もり)」を「ふるさとの森林(もり)」へ</p> <p>生瀬緑の少年団 (茨城県大子町立生瀬小学校)</p> <p>1</p>	<p>茨城県大子町</p> <p>2</p>	<p>広大な学校林がある生瀬小学校 学校林 4.2ha</p> <p>3</p>
<p>学校林：ふれあいの森林(もり)</p> <p>4</p>	<p>私たちの願い ふれあいの森林(もり)を ふるさとの森林(もり)へ</p> <p>私たちの活動</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学習活動 2 交流活動 3 整備活動 <p>5</p>	<p>学習活動① 間伐体験</p> <p>6</p>
<p>学習活動② 間伐材を使った活動</p> <p>柵作り ネームプレート作り</p> <p>7</p>	<p>学習活動③ 原木シイタケ栽培</p> <p>8</p>	<p>学習活動④ ふれあいの森林(もり)の音楽会</p> <p>9</p>

活動発表2 「ふれあいの森林(もり)」を「ふるさとの森林(もり)」へ

生瀬小学校を卒業した、お父さんやお母さんは、「ふれあいの森林は、いつ来てもいいところだね。」と
 ています。

その話を聞いて私たちは、地域の方に親しまれ、大人になっても、気軽に訪れることができる、「ふるさとの
 森林」を作りたいと、考えました。

ふれあいの森林が、ふるさとの森林になるように、学習活動や、交流活動、整備活動を、行いました。
 これから、私たちの、活動を紹介します。

まず始めに、学習活動についてです。

昨年度、杉山の間伐体験を行い、「活気ある森にするためには、間伐が重要だ」ということを学びました。

自分たちが切った木材を使った柵作りなどを体験し、木は無駄なく活用され、生活に役だっていることがわ
 かりました。

シイタケ栽培では、菌を打った原木を、水源近くに設置し、シイタケが育つ様子を観察しています。

学校だけで行ってきた音楽会でしたが、今は、地元の音楽家や海外からの留学生など、さまざまな人が訪
 れ、大人も子供も楽しめる、音楽会、を実施しています。

ふれあいの森林を探検しながら、植物や生きものを観察し、森林の特徴や良さを、発見しています。

今年度は、学習を広げるために、茨城県鹿嶋市の、栽培漁業センターに行きました。海を守るためには、栄
 養豊富な森の水が必要だ、ということを知りました。

次に、交流活動についてです。

私たちは、たくさんの人と、ふれあいの森林で、交流を行いました。

昨年度は、私たちが、大人になっても残るように、という願いを込めながら、ベンチを塗装し、保護者や地元
 の木工作家、筑波大学の留学生など、多くの方の力を借りて、設置することができました。

友達と一緒に自然の中で食べる、ふれあいの森林給食は、とてもおいしいです。

雪が降ると、1年生から6年生までが、仲良く雪山遊びをします。

私たちは、ふれあいの森林での交流活動を通して、人とのつながりのすばらしさを学ぶことができました。



10



11



12



13



14



15

生瀬緑の少年団 / 茨城県

次に、整備活動についてです。

秋になると、熊手やほうきを使って小枝や落ち葉を集め、遊歩道の整備を行っています。

また、学校入り口の坂道にも、ふれあいの森林から、たくさんの葉が落ちます。みんなで力を合わせて、落ち葉を集め、腐葉土も作ります。

ウォークラリーができるように、手作りの看板を設置しました。

ハチの被害を防ぐために、スズメバチトラップも仕掛けました。

整備活動を通して、森林を守るには、人による手入れが欠かせないことを、学ぶことができました。



私たちは、ふれあいの森林の活動を通して、自然について学び、仲間や家族、地域、海外の皆さんと、きずなを深め、世代を超えてつないでいける、ふるさとの森林を作ることができました。

これからも活動を続け、いつまでも、「ふれあいの森林」を、私たちの宝物として、残していきたいと思えます。

以上で、生瀬緑の少年団の、活動発表を終わりにします。

ごせいちょう、ありがとうございました。



16



17



18



19



20



21



活動発表3

つる ガールスカウト都留緑の少女隊／山梨県

◆タイトル

自然環境を学び、 出来る事にチャレンジ

◆発表者

さかきばら かさね わたなべ かのん
榊原 かさねさん 渡邊 花音さん



こんにちは、都留緑の少女隊です。活動を通し、体験して学んだことを発表します。

私たちの活動拠点である宝鏡寺山は県自然記念物の指定を受けているヤマブキソウの群生地です。そのほか、山全体にきれいな山野草がたくさんあり多くの人が散策する山です。

しかし、たくさんの人が入るといことは山が荒れたりお花を取ってしまう人もいますので、看板を立てたり立ち入り禁止のロープを張ったりして保全協力をしています。

そして、お寺の周りにコキア・ラベンダー・あじさい等のお花を植えてお花のお寺を目指しています。

活動を通して
体験して学んだこと

ガールスカウト都留 緑の少女隊
榊原かさね
渡邊 花音

1

宝鏡寺山保全活動
～看板取り付け作業～

山野草を守るために看板作り
やまぶき草

2

コキアの植栽

あじさいの手入れ
ラベンダーの手入れ

3

植樹活動に参加

県民緑化まつり植樹
さくらの植樹

4

湘南海岸マイクロプラスチック学習会
～私たちの町のごみはどこへ？～

海のごみ
どのようなものが捨てられているのか知る
海のごみ
魚がプラスチックを食べてら
らどうなるのか考える

5

サザンビーチのヘッドランド
ここが一番マイクロごみが集ま
る場所を見学する

砂を持ち帰り次の学習
につなげる

6

マイクロプラスチック学習会
～私たちが出来ることを考える～

講師のお話
流れ着いた海のごみ

7

アクション
～私たちの町のごみ拾い～

きれいな町づくり
自宅の周りも拾ってみる

8

持ち帰った砂の選別作業

私たちが出来ることを考える

9

毎年、県民緑化まつりに参加しています。

そして、都留文科大学近くの山を“さくらやま”にしようと市内の団体がプロジェクトを組み私たちも参加しました。7年かけて1000本達成しました。桜が大きくなったらお花見に行きたいと思います。

緑の少年団活動促進事業の助成を受け自然に触れ合う活動、もしもの時の準備を学ぶ活動、森と海の関係を観察する活動を実施する事ができました。

私たちの出したごみが海に流された時どうなるか実際に見に行きました。海岸の砂を、袋に詰め、持ち帰りました。海岸から持ち帰った砂を、ふるいでふるって、マイクロゴミを選別しました。

人工芝やトレー、農業用ビニールシート、私たちが生活の中で便利に使っているありとあらゆるものが正しく処理されないと海まで流れ着き魚が食べ、その魚を私たちが食べるのです。

私たちの体の中には知らず知らずに有害物質が入ってしまうのです。

30年後には海の魚よりごみのほうが多くなってしまおうという話も聞きました。



10



11



12



13



14



15



16



17



18

自然環境を学び、出来る事にチャレンジ ガールスカウト都留緑の少女隊／山梨県

この学習を通して、私たちが出来ることを考えてみました。

まずは地域のごみ拾い。そして、家のごみ調査を3日間、中学生と高校生がしてくれました。ガールスカウトでは、紙や生ごみは資源ごみにしているの、家から出るゴミのほとんどがプラごみということが分かりました。

新聞紙を使って、紙マキを作りました。そして実際に使ってみたら、燃えやすく、木のマキと同じくらい火力がありました。

自然に触れ合う活動として、ネイチャーゲームをたくさんしました。

- ①はっぱかるた
- ②どんぐりパチンコ・忍者参上
- ③カモフラージュ
- ④はっぱでステンドグラス
- ⑤道しるべハイク

もしもの時の準備を学ぶ活動もしました。

公衆電話なんてかけたことがなかったのでドキドキでした。キッチンペーパーでマスク作れます。新聞紙でスリッパ作りました。

救急法

毛布やシート、来ていたジャンパー、Tシャツなどで担架が作れます。

1年間防災のこと、自然の大切さ、水の大切さ、環境保全の大切さなど たくさん体験することができました。私たちに出来ることは少ないかもしれませんが、SDGsのアクションとして私たちに出来る事を少しずつ取り組みたいと思います。

プラごみの問題や宝鏡寺山をまもり多くの人が心を癒してくれる場所であり続けるために努力します。自然と触れ合いながら楽しく活動します。

これで私たちの発表を終わります。

ありがとうございました。



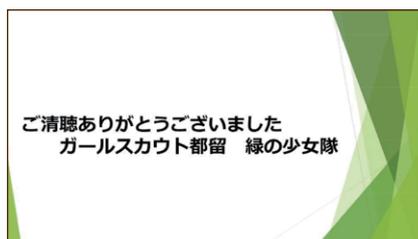
19



20



21



22



活動発表4

つけちみなみ
付知南小学校 みどりの少年団 / 岐阜県

◆ タイトル

**私たちが引き継ぐ
付知の森林(たからもの)**

◆ 発表者

にしお すみれ げんかわ りゅうと
西尾 董さん 源川 龍兔さん



わたしたちは、付知南小学校みどりの少年団です。

岐阜県の南東に位置する中津川市にあります。私たちが住む付知町は、江戸時代、幕府の直轄地として、多くの木材を搬出してきました。また、ご神木の里としても知られています。

そうした歴史や環境から付知南小学校では、35年続く植樹や森林教室を行ってきました。しかし、二つの活動だけだったので、すべての学年が付知の森林とつながることが必要で、少年団に加入しました。

それでは、「ふるさとのたからものを継承したい」と思うようになった、私たちの活動を紹介します。

まずは、学習活動です。

一つ目は「森林と私たちの暮らしをつなぐ活動」。

二つ目は「森や木と親しむ活動、木育」です。

一つ目の活動は、五つの取り組みからなります。

1 「私たちが引き継ぐ 付知の森林(たからもの)」

2 岐阜県 中津川市 付知町

3 付知町 江戸時代 幕府の直轄地 江戸時代 幕府の直轄地 江戸時代 幕府の直轄地 江戸時代 幕府の直轄地

4 長年続く森林とかかわる活動

5 長年続く森林とかかわる活動

6 森林と私たちの暮らしをつなぐ活動

7 森林と私たちの暮らしをつなぐ活動

8 森林と私たちの暮らしをつなぐ活動

9 森林と私たちの暮らしをつなぐ活動

10 森林と私たちの暮らしをつなぐ活動

11 森林と私たちの暮らしをつなぐ活動

12 森林と私たちの暮らしをつなぐ活動

活動発表4 **私たちが引き継ぐ付知の森林(たからもの)**

一つ目は、森林教室です。森の働きや、生活に活かされるクロモジやキハダなどの樹木を知りました。また、切り株に種が落ち、芽が出たヒノキの赤ちゃんを見た時は、「自然の生きる力はすごいな」と感動しました。

式年遷宮(しきねんせんぐう)斧(おの)入れ式で、「三ツ緒伐り(みつおぎり)」という伝統的な方法で切り倒された木の切り株も見学しました。YouTubeで伝統の技「三ツ緒伐り」と検索してみてください。すごい技がみられます。

日本の歴史的で重要な建物の木材が、ふるさとの山から切り出されていることを知り、誇りに思いました。



二つ目は、林業教室です。木が木材として使えるようになるまでには、少なくとも40年から50年もかかることを知りました。

そして、木をきちんと手入れして育て、使っていくことが、私たちの暮らしを守ることだとわかりました。

林業教室ではその他に昔の林業の道具を使ったり、ヒノキを、かながけしたり、VRチェーンソーの体験をしたりしました。木を切って加工するには、すごい技や道具があることを知りました。

三つ目は、間伐体験です。木を実際に切り倒すことは初めてでした。直径10cmほどの細い木なのに、思うようにのこぎりが動かず、苦勞しました。

四つ目は、間伐材の活用です。間伐体験のとき、山仕事の達人の皆さんがチェーンソーで間伐する様子を見ました。そのときの木を製材してもらい、自分たちで表面を磨き、代本板にしました。ヒノキの代本板になったことで、図書館で本を借りる楽しみが増えました。

五つ目は、林業と木工業の学習です。製材所・貯木場・150年続く旅館を見学しました。150年間も家を支えた、樹齢300年の松の木がテーブルに再利用されているところを見て、「木ってすごい」と思わず声を出してしまいました。



付知南小学校 みどりの少年団／岐阜県

植樹を経験した1年生は、大工さんとなり、「懸造（かけづくり）」という伝統的な技法を使って、木のジャングルジムを組み立て遊びました。

「大工さんのたのしい」と1年生は大喜びでした。

次は、木育です。木育は、「森林の座学」と「木工作品製作でセットの活動です。作品に使う材料は、工場から出る廃材や端材、自然の木の実などです。

実際の活動です。

1年生は、森の散策をおこなって、夏と秋の森を比べた図鑑をつくりました。

2年生は竹のトロンボーン、

3年生は、木の枝をほぐした筆で絵を描きました。

4年生はインディアンテント

5年生はご飯しゃもじ

6年生はひのきの小物入れなどを作りました。

各学年ごと、1年間に2回は木育の活動があるので、今回紹介したのはその一部です。

私たちは、たくさんの方々にお世話になっているので、私たちが教わった技や優しさで恩返しをしています。

物づくり以外にも楽しみがあります。林間学校では、先輩が間伐した木を使い、キャンプファイヤーを行いました。

そして、私たちが間伐した木は、次の学年が使います。先輩や後輩との間を付知の木がつかないでくれています。

ここまでに様々取り組んで森林とつながってきましたが、私たちには、卒業最後の製作があります。

小学校を卒業する日、「ひのきのコサージュ」を胸につけ、お家の方々に手作り感謝のパフールブーケを贈り、「付知特製ひのきのオルゴール箱」をもって卒業します。地域のたからものをもらって新たな一歩を踏み出します。

私たちは、緑の少年団の活動で、木の大切さ、森の大切さ。人の優しさや協力の大切さをすごく感じてきました。だからこそ、付知の人たちが受け継いできた木の文化を「たからもの」と思って、私たちは引き継いでいきます。

最後に、緑の少年団で活動できて本当にうれしかったです。

緑の少年団の活動を全校の誰もが楽しみな時間と思っていて、活動のおかげで、コロナ禍でも、全校136人全員が笑顔で学校生活を過ごすことができました。本当にありがとうございました。

これで、付知南小学校緑の少年団の活動発表を終わります。ありがとうございました。



21



22



23



24



25



活動発表5

なし き しょう

梨の木小 みどりの少年団 / 愛知県

◆タイトル

自然と触れ合い、
自然の大切さを知り、
自然を守る心を育む



◆発表者

かとう ゆづき
加藤 悠月さん

たかぎ さほ
高木 咲秀さん

こんにちは。私たちは、愛知県日進市の「梨の木小みどりの少年団」です。

「梨の木小みどりの少年団」は、日進市立梨の木小学校全校児童627名で構成されています。

梨の木小学校は、名古屋市と豊田市に挟まれた日進市の南に位置し、学区内に私鉄の駅が二つあります。その駅の近くには、マンションや住宅が立ち並び、学区内に自然がありません。

けれども、梨の木小学校には、「なしっこマウンテン」と名付けられた学習林や、広大な畑、校舎に囲まれた中庭が2つもあるため、学校に居ながら自然とたくさん触れ合うことができます。

「なしっこマウンテン」は1.25haの広さがあり、一度足を踏み入ると別世界に来たような感覚になります。そんな「なしっこマウンテン」では、理科の観察をしたり、頂上まで登って手作りの遊具で遊んだりできます。

このような学習林や畑、中庭を利用し、6年間を通して生活科や理科、総合的な学習の授業、委員会活動などで自然環境について学習しています。

この学習活動には 各学年の目標があります。

低学年は 自然と触れ合い、親しみをもつ

中学年は 自然の大切さを知る

高学年は 自然を大切にすることを育む

の三段階です。

そして、梨の木小学校を卒業する時には、自然を守るためには自分たちには何ができるか考え、実行できる児童になることが目標です。



1



2



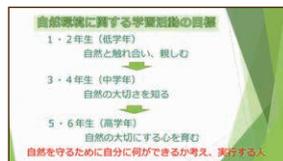
3



4



5



6



7



8

では、まず「自然と触れ合い、親しみをもつ」1、2年生の取組を紹介します。

1年生では、毎年、生活科の「秋をさがそう」の授業で「なしっこマウンテン」でどんぐりなど、木の実や葉、枝を拾い、教室に持ち帰っておもちゃを作っています。そして、「なしっこ公開日」(授業参観)では、おもちゃ屋さんを開きます。

昨年度は、拾った木の実で飾った手作りの冠をかぶってお客様をお迎えしました。どんぐりや落ち葉をたくさん拾って、やじろべえや輪投げ、ボーリングができるおもちゃを作り、友達や保護者の皆さんに遊んでもらいました。

2年生は、学校の畑で苗を植え、育てたサツマイモのツルと「なしっこマウンテン」で拾った木の実を使って、図工でリース作りをしました。自分たちの手で育てたサツマイモのツルを使うことで、愛着がわきました。

次は、自然の大切さを知る3、4年生です。

3年生は、毎年6月に地域の「折戸川にホタルを飛ばそう会」の方に学校に来ていただき「川の水質を守ることの大切さ」を学んでいます。ここで、初めて人間と自然の関係を学びます。川の水を汚しているのは人間が捨てたゴミであることを知り、日進市に残っている自然をこれから大切にしながら守っていきたくて強く感じました。

4年生は、総合的な学習の時間に、水と森林の関係について学びました。隣の長久手市にある「もりの学舎」を訪問して、普段飲んでいる水が供給され続けるために、森林が大切な役割を担っていることを学びました。その後、水と森林の関係を調べて秋にグループで発表しました。この時、私たちの命は自然のダムとなる森林に支えられていることを知り、森林を守り続ける必要があることを実感しました。

次は、自然を大切にすることを育み、自然を守るために自分たちに何ができるか考える5、6年生の取組です。

5年生では、総合的な学習の時間で毎年「自然環境の保護」をテーマに設定しています。地元の里山保全アドバイザーの方に講演していただき、里山は人の手によって保たれていることを学びました。その後、「守ろう 私たちの自然環境～森林学習を通して～」をテーマに調べ学習に取り組みました。そこでは、森林は長い年月をかけて木の種類が変わることや、森林で働く人の苦勞などを知りました。

1月に「なしっこマウンテン」の落ち葉を集めて樹木の種類を調べ、里山の植生遷移を学ぶと同時に「なしっこマウンテン」が竹に浸食されつつあることを知りました。そして、3月には森林組合の方に来ていただき、なしっこマウンテンでプロの手によって間伐するところを見学しました。その後、伐採した竹を機械でチップにする体験をさせていただきました。そして竹チップを触り、何に使えるか考えました。教室に戻って調べてみると、その竹チップも土壌改良剤や家畜の肥料やにおい消しなど、さまざまな利用方法があることを知り、循環する自然界のすばらしさを感じました。



自然と触れ合い、自然の大切さを知り、自然を守る心を育む 梨の木小 みどりの少年団／愛知県

今年度は、竹を利用して様々な竹細工作りに挑戦し、できた遊具や道具を学区内にある子育て支援センターに寄贈する予定です。

6年生では、6年間遊びの場であり、学びの場であった「なしっこマウンテン」を「竹の脅威から山を守る」という思いで奉仕活動を行っています。竹の成長の速さや周囲の木に与える影響について話を聞き、竹の切り方を教えていただきました。その後、卒業前の奉仕活動で、業者の方に伐採してもらった竹の細い枝を払い、適度な長さにはさみで安全なところにまとめて置きました。

私たちは来年度入学してくる1年生がなしっこマウンテンに入るときに危険のないように山を維持したいという思いがあります。そして、これからも末永くこのなしっこマウンテンが梨の木小の児童にとって学びの場になってほしいと思います。

本校では、6年間の学習活動だけでなく、委員会やPTAでも自然環境に関する活動を続けています。

自然環境委員会では、校区内の樹木医の方に協力していただき、樹木名札を作成し、約80個取り付けました。「なしっこマウンテン」は、地域の方も自由に入れる山なので、年に数回市の環境課が主催した自然観察会が行われています。そこで、参加された方も木の名前が分かるように取り付けました。この活動で、自分で作成した名札の木だけでなく、他の樹木に興味をもつようになり、名前や特徴などをたくさん調べるようになりました。

春には、竹の勢力が増している「なしっこマウンテン」の整備のために「たけのご掘り」が必要だと考え、PTA主催で開催されています。また、学校の畑では、学校と地域の方で育てたジャガイモやタマネギ、さつまいも、大根の収穫をして、地域の方にたくさん持ち帰っていただいています。

そして、校舎の中庭では、花の苗をボランティアの方と一緒に植えて一年中きれいな中庭になるよう自然環境委員会や清掃活動班を中心に活動しています。毎日休み時間にたくさんの児童が訪れ、憩いの場となっている中庭を、自分たちの手で整備することにより、草花を大切に作る心が育まれています。

以上のように、6年間の様々な活動を通して自然を愛する心を育み、自分に何ができるか考え、実行してきた梨の木小学校の卒業生として、これからは地域、そして世界に目を向け、また何ができるのか考え、実行していく人になっていきたいと思っています。

これで発表を終わります。ありがとうございました。



15



16



17



18